

地域包括支援センター等へのアンケート調査結果（速報値）

令和3年8月に実施した地域包括支援センターおよび在宅介護支援センターを対象にしたアンケート調査結果の主な概要は、次のとおりです。

なお、最終的には確定値をもとに報告書を作成する予定です。

1 回答数

- ・地域包括支援センター 55 箇所（全体：68 箇所）（回収率 80.9 %）
- ・在宅介護支援センター 26 箇所（全体：59 箇所）（回収率 44.1 %）

2 質問項目

○担当地区におけるひきこもり状態にある方の有無

- ・地域包括支援センター 「いる」 50 箇所 (90.9%)、「いない」5 箇所 (9.1%)
ひきこもりの方 286 人（うち中高年層 224 人）
- ・在宅介護支援センター 「いる」 14 箇所 (53.8%)、「いない」12 箇所 (46.2%)
ひきこもりの方 36 人（うち中高年層 27 人）

○「いる」と回答・ひきこもり状態にある方を把握する機会（複数回答）

- ・地域包括支援センター
 - ア 「関係機関からの情報提供」 74.0%
 - イ 「当事者の家族からの相談」 66.0%
 - ウ 「近隣住民からの情報提供（相談）」 52.0%
- ・在宅介護支援センター
 - ア 「当事者の家族からの相談」
 - 「関係機関からの情報提供」 各 50.0%
 - イ 「各世帯の見守りや安否確認時」
 - 「近隣住民からの情報提供（相談）」 各 21.4%
 - ウ 「介護サービス提供事業者からの情報提供」
 - 「その他」 各 14.3%

○ひきこもり状態にある方を知ったときの対応

- ・地域包括支援センター
 - ア 「当事者の家族からの相談を聞く」 34.5%
 - イ 「関係づくりのための訪問を行う」 20.0%

- ウ 「当事者・家族に対し、相談窓口や支援機関について情報提供を行う」
「相談窓口や支援機関に対し、当事者・家族に関する情報提供を行う」 各 14.5%
- ・在宅介護支援センター
 - ア 「当事者の家族からの相談を聞く」 30.8%
 - イ 「相談窓口や支援機関に対し、当事者・家族に関する情報提供を行う」 23.1%
 - ウ 「当事者・家族に対し、相談窓口や支援機関について情報提供を行う」 19.2%

○連携している関係機関（複数回答）

- ・地域包括支援センター
 - ア 「市役所・町役場」 69.1%
 - イ 「社会福祉協議会」 65.5%
 - ウ 「民生委員・児童委員」 63.6%
 - エ 「生活困窮者自立相談支援機関」 54.5%
 - オ 「保健所・保健センター」 47.3%
- ・在宅介護支援センター
 - ア 「民生委員・児童委員」 57.7%
 - イ 「市役所・町役場」 46.2%
 - ウ 「社会福祉協議会」
「医療機関」 各 34.6%
 - エ 「保健所・保健センター」 26.9%
 - オ 「特になし」 19.2%

○（中高年層向け）ひきこもり支援で困っていること（複数回答）

- ・地域包括支援センター
 - ア 「家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない」 78.2%
 - イ 「ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない」 70.9%
 - ウ 「相談・支援に至るまで長時間経過しているケースが多く、対応が難しいと感じる」 63.6%
 - エ 「当事者がいる家庭の存在は把握しているが、ひきこもりの相談につなげられない」 58.2%

- オ 「当事者・家族が抱える悩みが多岐にわたっているため、対応に時間がかかる」 49.1%
- ・在宅介護支援センター
 - ア 「ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない」 61.5%
 - イ 「家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない」 57.7%
 - ウ 「身近な地域にあるひきこもりに係る支援の社会資源を知らない」 46.2%
 - エ 「当事者や家族からの相談に対して、適切な対応がわからない」
「当事者・家族が抱える悩みが多岐にわたっているため、対応に時間がかかる」 各 42.3%
 - オ 「相談・支援に至るまで長時間経過しているケースが多く、対応が難しいと感じる」 38.5%

○（若年層向け）ひきこもり支援で困っていること（複数回答）

- ・地域包括支援センター
 - ア 「ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない」 52.7%
 - イ 「家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない」 43.6%
 - ウ 「相談・支援に至るまで長時間経過しているケースが多く、対応が難しいと感じる」 38.2%
 - エ 「当事者・家族が抱える悩みが多岐にわたっているため、対応に時間がかかる」
「若年層の当事者がいる家庭の存在を把握したことがない」 各 36.4%
- ・在宅介護支援センター
 - ア 「ひきこもりに係る知識や支援ノウハウを有していない」 50.0%
 - イ 「家族から相談があっても、当事者が相談・支援を望んでいない」
「身近な地域にあるひきこもりに係る支援の社会資源を知らない」 各 38.5%
 - ウ 「当事者・家族が抱える悩みが多岐にわたっているため、対応に時間がかかる」
「若者層の当事者がいる家庭の存在を把握したことがない」 各 34.6%

○ひきこもり支援のために必要と考える施策（複数回答）

・地域包括支援センター

ア	「専門的な医療支援・カウンセリング」	78.2%
イ	「家族支援」	76.4%
ウ	「相談窓口の充実」	72.7%
エ	「就労支援」	69.1%
オ	「相談窓口の周知・PR」	67.3%

・在宅介護支援センター

ア	「家族支援」	80.8%
イ	「専門的な医療支援・カウンセリング」	73.1%
ウ	「相談窓口の周知・PR」	69.2%
エ	「居場所づくり」	65.4%
オ	「相談窓口の充実」	
	「就労支援」	各 57.7%

○ひきこもりの状態から社会復帰した人

・地域包括支援センター

「知っている」23箇所（41.8%）、「知らない」32箇所（58.2%）

・在宅介護支援センター

「知っている」3箇所（11.5%）、「知らない」23箇所（88.5%）